

第29回定期全国大会開催！ 新運転結成の原点から 新たな展望を開く方針確認！

去る2月15日の60周年記念祝賀会からほぼ一カ月後に開かれた全国大会。結成から60年の組織の進展変化と活動総括を確認し、今後の展望を拓くべく全国から役員と代議員が東京タレット根岸会館に結集した。とりわけバブル崩壊後30年近くの政治経済状況の変化を直視し、人間の還暦祝い同様、原点回帰と新たな人生開拓の両面の意義を持つ今年を起点に我々の労働事業に新たな展望を開く方針論議が期待された。その原点は、諸先輩たちが目指した国家権力と資本、そして政党から独立した戦闘的労働組合主義に他ならない。それは30年前に新産別から連合に組織加入しようとも変わらぬ基本理念である。その連合30周年に当たり、今や1千万人を越える「雇用類似の働き方」の問題解決の為に労働事業の積極活用と労働事業法制定へ弾みをつける前向きな議論が求められた大会だった。

去る3月17日午後1時からタレット根岸会館5階において全国からの役員11名、代議員18名が結集し、第29回定期全国大会が開催された。大会冒頭、司会の白土副委員長から「働き方改革として政府は労働力を確保しようとしているが、考えてみれば我々の労働事業こそ先進性があったと思っっている。正社員は会社を定年したら会社との縁は切れ、また労働組合とも縁が切れる。しかし新運転では自分達の働き方を選別してやっていく。関西は一人親世代が多くて深刻な問題となっている。行政が出来るないところを我々が共同体として何かしていけば良い。丁度60年、先輩たちが企業に隷属しない自由な働



白土副委員長

き方を求めてきた運動を今度是我々が今後どうやっていくのかの議論を本大会でお願いしたい」という趣旨の挨拶があり、大会議長に東京地本の菅原代議員が選出され、大会書記は田中(滋)賀、執行委員、資格審査委員、理事運営委員長には楠(滋)賀、副委員長と各地本から1名の代議員が就任した。



折井委員長

続いて、折井委員長の挨拶に移り、「先月は新運転60年と言う事で祝賀会をおこないました。今年は色んな面で節目の年であり、新運転は60周年、連合は結成30周年、そして来月には年号が変わったりとか言う事で色んな意味で区切りの年となっていますが、これからどういう方向に進んでいけば良いのかというところを本日議論できれば



赤川代議員

から質問と意見が出されたが、全体の拍手で承認された。そして10分の休憩をはさんで再開となり、太田書記長から「活動総括と2019年度方針案」が次の骨子で提案された。「はじめに」の項では「新運転60年の組織変遷を『日本運転者組合』から現在の『新産別運転者労働組合』に変更した経緯と中央本部、東京、関西、埼玉、北海道、滋賀に地方本部が結成されたことと確認。又、ILO結成と朝鮮民族独立宣言100周年の国際的な視点から徴用工問題等で反韓キャンペーンを強める安倍政権に反対し東アジア平和構築に對する我々の責任と積極的な関与が求められている」と提案。



太田書記長

「政策・制度要求の実現に向けて」の項では「1970年当時の労働省が作成した労働法コメンタール労働事業の『甲(供給元)と乙(供給先)と丙(労働者)』三者の使用関係の単純ミスが、政府担当者や労働法学者らも気づかず図式化されてきたことが明らかになった件は是正と原則的な労働事業の内、派遣法を作り使用関係を合法化した以上、労働組合の労働事業法の制定が必要である」と強調した。



高見代議員

「政策・制度要求の実現に向けて」の項では「1970年当時の労働省が作成した労働法コメンタール労働事業の『甲(供給元)と乙(供給先)と丙(労働者)』三者の使用関係の単純ミスが、政府担当者や労働法学者らも気づかず図式化されてきたことが明らかになった件は是正と原則的な労働事業の内、派遣法を作り使用関係を合法化した以上、労働組合の労働事業法の制定が必要である」と強調した。

「政策・制度要求の実現に向けて」の項では「1970年当時の労働省が作成した労働法コメンタール労働事業の『甲(供給元)と乙(供給先)と丙(労働者)』三者の使用関係の単純ミスが、政府担当者や労働法学者らも気づかず図式化されてきたことが明らかになった件は是正と原則的な労働事業の内、派遣法を作り使用関係を合法化した以上、労働組合の労働事業法の制定が必要である」と強調した。

中央本部役員名簿	折井 洋之(埼玉)
中央執行委員長	白土 武裕(関西)
副執行委員長	楠 真一郎(滋賀)
書記長	川村 勝(東京)
中央執行委員	太田 武二(東京)
田中 浩(滋賀)	黒須 明(埼玉)
辻居 康伸(関西)	浦田 司(東京)
佐々木克己(東京)	関戸 広大(埼玉)
会計監査	

大会宣言

本大会は、今年新運転が結成されて60年という区切りの年に開催された。また、本年は連合結成30周年、中央労働協成70周年、ILO結成100周年の年であり、隣国の韓国、北朝鮮との関係で、日帝植民地時代の朝鮮民族独立宣言100周年をこの3月1日に迎えた。しかしながら、植民地支配下の歴史認識問題や徴用工問題において安倍政権と一体となったマスコミの反韓キャンペーンが強まっている折から、我々も東アジアの平和構築に向けて労働組合としての責任と積極的な関与を確認し、憲法の基本理念をいかに守るに資する安倍政権の暴走に対して憲法9条の改悪を阻止するために今春の統一自治体選挙から夏の参議院選挙を全力で闘う決意を固めた。

また、一昨年の安倍首相の「モリカケ疑惑」に端を発して、働き方改革の「データ改ざん」から「毎月勤労統計」「賃金構造基本統計」の不正、改ざんが明らかになること共に、厚労省の労働事業の定義に重大な誤りがあったことを糾弾し、働くこと労働者供給事業の具体化を今年の重点課題として方針強化した。更に、連合結成30周年の今年「連合ビジョン」「連合運動強化」などの運動と組織の見直しに對して、1000万人連合の実現には労働組合の労働事業への取り組みが不可欠であることと中央労働協成70周年に労働、全労済、労働者自主福祉運動に積極的に関与し、組合員だけでなく地域における生活困難者の就労、生活支援事業、空き家対策や耕作放棄地の活用などが検討された。

我々の労働事業の厳しい現況の克服と今後の供給需要の拡大に對する賃金労働条件の引き上げに全力を尽くし、高品質な労働技能を有する労働組合である新運転ブランドを組織全員で固守し、新規組合員の加入促進と組織拡大に取り組むことを決意した。

そして、本大会では、我々の先輩たちが歩んできた困難な歴史を振り返ると共に職業別労働組合、職能組合としての基本的な理念を再確認し、人間社会における還暦同様に、原点回帰と新たな人生開拓の両面の意義を持つ60周年を起点に、労働組合の労働事業に新たな展望を開くための学習と議論を深めることを確認した。

今年一年、連合、交通労働や平和フォーラムの仲間たちと広範な運動を構築し、憲法理念の実現による平和と人権、環境を守り抜いていく。

右、宣言する。

2019年3月17日

新産別運転者労働組合 第29回定期全国大会

新運輸結成60周年祝賀会

おかげさまで60周年 1956年2月~2019年2月



新運輸結成60周年祝賀会 盛大に開催!

1959年2月13日、職業別組合として発足した「日本運輸者組合」。5月に旧労働4団体の新産別へ加盟申請、名称を現在の「新産別運輸者労働組合」に変更して現在に至る。それから60年、新産別創設者の細谷松太氏、初代委員長の柏原実氏、そして、飛田正一氏から篠崎庄平氏らの薫陶を受けて30年前に連合へ組織加盟となった。この間、組合を取り巻く情勢が大きく変化してきたなかで、労働者武器に職業別労働組合として苦難を乗り越えてきた諸先輩方に改めて敬意を表したい。その諸先輩の脈、運動遺産への評価として春闘真っ盛りにも拘らず参加を頂いた多くのご来賓の方々に心から感謝を申し上げる。

去る2月15日、ホテル業界、新運輸関係に交通新ラングウッド鳳凰の間で午後6時から開かれた会場に「おかげさまで60年！新産別運輸者労働組合結成60周年祝賀会」の看板が掲げられ、中央労金、全労済、そして故北浦委員長のご子息から送られた花々が彩を添えていた。ホテルの都合で受付が始まる前から多くのご来賓の方々が待つ形になり大変申し訳ない状態からのお迎えとなった。尚、100名を超えるご来賓の方々のお名前と肩書(下段参照)は当日のプログラムに記載したが、労働組合関係、労金・全労済・労福協、国会・都議・区議会議員、生コン・清掃・タクシー



「60年間に様々な困難を乗り越えて労働事業を行う職業別労働組合を牽引してきた先達に対する深い敬意と感謝を捧げると共に新産別運輸者労働組合の旗をしっかりと掲げたい。その中で労働者として力添えを頂きたい。この感謝と新運輸として60周年を迎え労働組合として労働事業に尽力していることに心から敬意を表したい」という趣旨の発言を頂いた。

続いて、連合本部から石黒生



折井委員長

折井委員長が挨拶し、井中央執行委員長が登壇し、



住野俊彦議長

続いて、来賓の挨拶に移り、最初に交運労協を代表して住野俊彦議長が挨拶に立ち「交運労協は日本の陸・海・空に働く18構成組織、約65万人の組合員の生活向上と安全安心の交通運輸政策に向けて力を結集し

鹿明博議員が登壇し「昨年来、厚労省との交渉の場に何度立ち会って、新運輸の労働事業の実情を訴え厚労省の労働事業の定義の間違いを指摘してきた



初鹿明博議員

そして、立憲民主党の初鹿明博議員が登壇し「昨年来、厚労省との交渉の場に何度立ち会って、新運輸の労働事業の実情を訴え厚労省の労働事業の定義の間違いを指摘してきた

その後暫くの歓談を受けて多くの来賓の中から時間の関係で次の方々に挨拶を頂いた。まずは、労働事業の主要な供給先である関東生コン輸送協会の山崎睦彦会長からは、業界の現状と新運輸との協力関係を



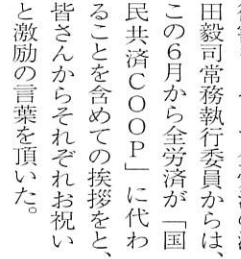
山崎睦彦会長

その後暫くの歓談を受けて多くの来賓の中から時間の関係で次の方々に挨拶を頂いた。まずは、労働事業の主要な供給先である関東生コン輸送協会の山崎睦彦会長からは、業界の現状と新運輸との協力関係を

そして、再び「オルケスの皆さんの素晴らしいラテの音楽に心酔させながら書記長の音頭で中締めから終宴となった。



濱田毅司常務執行委員



山内達也常務理事

中央労金の山内達也東京本部常務理事は、超低金利環境と労働金庫の原点と



花井圭子事務局長

望を。中央労協の花井圭子事務局長は、70周年を迎えた労働協の新なるビジョンと女性活躍の期待を。



真島勝重委員長

- ご来賓の皆様
交運労協議長
連合副事務局長
非正規労働センター総局長
連合東京事務局長
東京交運労協副議長
自運労委員長
副委員長
書記長
全運労委員長
神奈川人材供給委員長
音楽ユニオン代表運営委員
事務局長
私鉄総連中央執行委員長
交通対策局長
全労金中央執行委員長
全港湾中央執行委員長
国労中央執行委員長
全日建運輸会長
中央執行委員長
全日本海員組合政策局長
JAM会長
情報労連中央委員長
運輸労連中央執行委員長
JR連合事務局長
JR総連副執行委員長
交運労連組織部長
東京ハイタク労働執行委員長
サービス連合会長
住野 敏彦
矢木 孝幸
石黒 生子
杉浦 賢次
佐藤 正男
玉垣 洋一
高安 邦彦
三好 雅之
山影 徹
田丸 春吉
土屋 学
青谷 充子
田野辺 耕一
森屋 隆
末留 新悟
真島 勝重
菊池 忠志
長谷川 武久
菊池 進
立川 博行
安河内 賢弘
野田三 七生
難波 淳介
河村 滋喜
田城 郁
貫 正和
幸田 和雄
後藤 常康

- 全水道書記長
全自交労連委員長
全自交東京地連書記長
KPU東京地連執行委員長
東京ハイタク労働団体事務局長
私鉄関東地方ハイタク協議会議長
東京ハイタク中立労組協議会事務局長
平和フォーラム共同代表
中央労金庫東京都本部常務理事
全労済東京都本部部長
中央労金庫荒川支店支店長
全労済東部支所支所長
全労済本部常務執行役員
産別推進課長
産別推進課
中央労福協事務局長
事務局長
東京労福協事務局長
初鹿 明博
苦米地 真理
田の上 いくこ
たきぐち 学
青柳 雅之
神尾 昭央
かわごえ 誠一
河野 達男
佐藤 ありつね
鈴木 あきら
高橋 正憲

- 衆議院議員
近藤昭一議員秘書
東京都議会議員
東京都議会議員
台東区議会議員
江戸川区議会議員
葛飾区議会議員
新宿区議会議員
北区議会議員
足立区議会議員
板橋区議会議員
村上 彰一
伊藤 実
直井 幸男
藤野 輝一
野尻 雅人
金子 博昭
前川 貴泉
藤本 泰成
山内 達也
高須 則幸
黒木 由季子
田中 幹
濱田 毅司
渡邊 健志
花井 圭子
栗岡 勝也
坂本 俊裕

- 竹内 あきひろ
中村 けい子
野呂 恵子
野田 圭二
本目 さよ
松尾 ゆり
松永 吉洋
むとう 有子
米山 真吾
米山 やすし
長谷川 ゆう子
銀川 ゆい子
橋立 啓子
関東生コン輸送協会会長
三醇物流代表取締役
豊川運輸代表取締役
中央コンクリート代表取締役
船橋レミコン代表取締役
清澄運輸代表取締役
清澄運輸運輸長
久留米運輸所長
吉田建材常務取締役
主任
日本ムーブック代表取締役
神奈川生コン輸送協会会長
港運輸代表取締役
秋元運輸倉庫所長
桐生レミコン工場長
興生運輸運行課長

- 荒川区議会議員
葛飾区議会議員
大田区議会議員
世田谷区議会議員
台東区議会議員
杉並区議会議員
品川区議会議員
中野区議会議員
葛飾区議会議員
足立区議会議員
足立区議会議員
足立区議会議員候補
荒川区議会議員候補
山崎 睦彦
鈴木 裕章
真地 実
藪田 健介
嶋津 恭宣
千住 敏久
中村 賢治
泉澤 光明
吉田 信幸
高橋 尚幸
芦沢 尚幸
妹尾 洋
坂井 文男
田中 義茂
及川 博文
大野 正幸

- 櫻商會課長
砂町運輸所長
第三東海代表取締役
中野運輸代表取締役
成増興業代表取締役
協立輸送代表取締役
中島運輸代表取締役
ヨドセイ課長
富士運輸専務取締役
小川商會課長
トベ商事副所長
白井運輸総務部長
新聞輸送芝浦所長
個人タクシー事業部代表理事
エコシステム株式会社代表取締役
常務取締役
共栄交通株式会社専務取締役
美松交通株式会社部長
河合 明博(元新産別)
五十嵐 清(元新産別)
北浦 隆博(北浦元委員長ご長男)
北村 晋治(弁護士)
北川 朝恵(弁護士)
高橋 亮(税理士)
中溝 浩(司法書士)
(株)東京交通新聞記者
(株)交通界記者
タクシー日本新聞社代表取締役
編集長
宮沢 一浩
石川 健二
宇田川 稔高
松原 軍次
上野 誠
鈴木 健
鈴木 高志
高橋 恵太
小野 明道
城市 浩志
平地屋 尚
鈴木 昭一
佐々木 亨
吉谷 輝夫
中村 秀樹
黒澤 久泰
磯ヶ谷 充
田村 雅弘